社会福祉法人 光寿会

まんさく

2025年3月17日 (1)

第310号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
ＴＥＬ 0197－84－2526
題字 元理事長 太田祖電

光寿苑夜間防災総合訓練実施〔火災・地震想定〕 ～令和7年3月10日～

3.11以降、防災意識が薄れないようにと、毎年、この時期に防災訓練を実施しています。地震想定の垂直避難訓練も実施。消防署立会いのもとで貴重なご指摘も賜り、防災意識が高まりました。

３１０号『まんさく』もくじ

☆２頁★
＊災害を捉える(1頁目)
＊職員募集中

☆３頁★
＊災害を捉える(2頁目)
＊寄贈・面会・外泊等

☆４頁★
＊地域密着型事業紹介
＊職員研修…クリアするのも～

☆５頁★
＊社会福祉永年勤続表彰者
＊光寿苑のかお(職員の紹介)

☆６頁★
＊「光寿会の日々」(４コマ漫画)
＊「自然法爾」(お寺さんのお話)
＊「おわりに」

光寿会では、事務系・相談員系・介護系・調理系等の職員を募集中です♪

石川県七尾市のお寺さん・竹原了珠氏に連載で筆をとって頂いております。「悲しみと苦しさを、一体誰が受け止めてくれるというのか」という言葉が今号では出て参りますが、どちらで災害が起こっても必ず立ちはだかる問いです。一緒に考えて頂ければと存じます。

被災地体験は、痛みの体験であることは間違いありません。でも、何も生まれない「痛み」ではありません。

９年前、愛知県愛西市の中学生が、東北の被災地訪問をきっかけに、地元の防災を考える子どもたちの「ハザード会」が発会しました。以来、後輩たちにバトンタッチされて、先日（２０２５年２月７日）、愛西市議会の議長に「請願書」を提出しました。残念なことに大人（市議会議員）からは、

「市に楯つくのか！もっての他」

「賛同はするが、署名はできない」

等と言われたそうです。

請願では、①「早急に各地区防災計画を作成するように」②「防災計画を作成するにあたって、若者や専門家、行政の話し合いを設けること」が要請されました。特に目を引いたのは、請願書の冒頭に被災した東北の方々から教わった内容が記されていたことです。過去の記憶の「痛み」は、痛みのままではないのだと知りました。

先日、能登の地震と豪雨によってすべて無くなった年配の女性と、仮設住宅の集会場の炊き出しカフェでおしゃべりをしました。

「正月を迎えて、一年が経ってね。それまでは泣きどおしの毎日だったけど、泣いてもしょうがないって思ったの。年を越すということは大切ね。」

と言っていました。涙に暮れるだけで生きていたくないのでしょう。でも、そう言いながら彼女の眼は涙で濡れていて、私は見つめ続けることができませんでした。彼女の生きがいだった畑は、今も１メートルの厚さの土砂と瓦礫と木々に埋もれています。前を向いていくことは、中々困難なことだと感じました。これから、沢山の時間が必要なのです。

また別の日、能登で被災した子どもたちの支援にあたっているボランティア同士の情報交換会が開催されました。驚いたことに、生粋の能登人（能登の生まれ育ち）が、私以外、誰もいませんでした。確か３・１１の東北の時には、あちこちに地元で活動する若者がいたと思うのです。

職員募集中

事務系・調理系・介護系・相談員系

① 町外の方等であれば、住まいも併せてケア致します(^^♪

② 期間限定でも構いません。お力添え下さる方、お待ちしております。

③ 上記の他、洗濯掃除関係などもお気軽にお尋ね下さい。

※ お電話お待ちしております♪

【代表　0197-84-2526】

想…　災害を捉える　石川県七尾市から発信③

『能登から被災地だより③』竹原了珠 氏

でも、能登の場合は、被災者であり支援者であるという人が、非常に少ないということを感じます。

この意見交換会でも課題になったのが、

「自分たちはいつか支援を終えて能登から出ていくことになります。だから、地元の方々が主体的に活動していただきたいと思っているんです。でも、１年掛けても、スタッフとして関わっていただける地元の方が生まれませんでした。」

という報告が相次ぎました。

どうして地元民が、支援活動を行う側に立てないのか…。きっと、これからの途方もない時間が必要なのです。

昨年のことですが、発災３日目の１月３日。被害の全貌を把握するために、早朝、車で出発し、怪獣が暴れて破壊したような能登を走り、倒壊した家に向かって名前を呼ぶ人や、途方に暮れてウロウロする人、極度の緊張感で興奮している人に出会って考えていたことは、

「この能登の人たちの悲しみと苦しさを、一体誰が受け止めてくれるというのか。」

ということでした。受け止めてくれる人がいなければ、この痛みは救われない…と。でも今、違うなと感じています。

能登の人其々に痛みを抱いていて、痛みそのものが〃救われたい〃と強く願って苦しんでいる。それでいいじゃないか…と。

東北の痛みが、今、愛西市の中学生の請願書を生み出したように、私たちの痛みもきっと、どこかで花開くはずだと思っています。

（続）

竹原了珠 氏（たけはらりょうしゅ）

真宗大谷派　浄願寺住職
（石川県七尾市）
昭和４５年生（５４歳）
大学卒業後は…
＊大学研究員　＊IT 企業
＊真宗大谷派宗務所
＊珈琲豆焙煎販売業

上記を経て、現在、浄願寺住職ならびに真宗大谷派能登教務所長を務める。

おかげさまでした

寄附
★ 匿 名 希 望　様〔奈良県〕

寄贈
★ 匿 名 希 望　様〔槻　沢〕
☆ 髙橋 ちづ子　様〔下　前〕
☆ 高 橋 智 也　様〔埼玉県〕

面会・外泊
【対面面会】
★ 延べ39名（対象入居者18名）
☆ 延べ16名（対象入居者5名）
【自宅外泊】
☆ 1名

★＝光寿苑　☆＝ひなたぼっこ、湖畔の宿

光寿会へのご支援

来所
【2月1日、15日　機能訓練ボランティア】
☆ 伊 藤 淳 史 先生〔秋田県〕
【3月10日　防災訓練立会い】
☆ 西和賀消防署員 様 … 3名

今月の登録者の方々
１６名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

寒い冬を超えて、いよいよ春へ…「ひなたぼっこの日常」

立派なひな飾りをバックに仲良しの乾杯(^^♪　〔今回は感染症対応もあり写真が激少で…涙〕

職員研修…クリアするのも大変です！

介護事業所には、法的に年間でクリアしなければならない研修が数多く課せられています。同じジャンルでも内容を変えて２回実施するなど、その時間を設けるだけでも多くの事業所はひと苦労というのが実情です。今年度は、読み合わせ型研修を多く取り入れて、何とか臨んできました（汗）。

社会福祉永年勤続表彰者

西和賀地域の福祉現場を永く支え続けてくれている光寿苑介護士の加藤千恵子さんと調理師の高橋忍さんが、この度、社会福祉大会において授賞されました。

経歴は『〇〇年（うんじゅうねん）』とシークレットとさせて頂きますが、お年寄りのためになるよう、身の回りのケアや、命を支える食づくりに日夜励んでいる功績に拍手をお願い致します♡

【2名共、表彰式に参列できなかったので、施設内で賛辞を贈りました♪】

光寿苑のかお

【職員の紹介】

高橋美紀さん［看護職員］

Q1 今の仕事の魅力ややりがいを感じるのはどんな時ですか。

A1 基本、人と関わる仕事が好きなので♪ お年寄りたちの笑顔が見られた時は、"ああ、この仕事やっていて良かった"と思いますね。

Q2 休日の過ごし方は？

A2 休みはほぼ、家族のことですかね！前職は不規則勤務（夜勤）も多かったので、誕生日等の記念日には手づくりの食事やケーキをせめてもと作っていました。今もそれは続けています。子どもは手の掛からない年代になったけど、食事の面だけでも支えたいと意識しています。

Q3 一押しの映画等ありますか？

A3 ディズニー映画の『リメンバー・ミー』が大好きです。先祖や家族を想い、お互いを想いやる心が表現されていて、あれ観て毎回泣いて心が洗われます。入居者（おとしより）や職員（なかま）を想う気持ちを与えてくれます。"一人じゃないんだ！"と思わせてくれます。

お年寄りへの優しい言葉掛けはお手本です♪

Q4 今、やれていないことは？

A4 海に行くこと。海を見ると、自分の悩みがちっぽけだったと思えて、浄化されるんです。最近、時間なくて行けてなくて…。

Q5 ぜひ、有給取って行って来てください♪（笑）

A5 自分のための時間、大事にしなきゃないですもんね♪。

その親にも親にも似るなかれ　かく汝（な）が父は思えるぞ、子よ

《石川啄木『悲しき玩具』》

第109回　丸田善明

自然法爾〔じねんほうに〕

漱石と南部人…3人目は、石川啄木。

漱石にとって南部岩手は、北の辺境という認識を超えなかったのではないかと思う。28歳の8月に遊んだ松島が、東北の最北ではなかっただろうか。

啄木との縁は、漱石43歳の春。高い志しを抱えたまま芽の出ない24歳の啄木は、郷里盛岡の人で朝日新聞の編集長・佐藤北江（ほっこう）に拾われて朝日新聞の校正係として入社したが、かねてより、啄木の才に注目していた『文芸欄』の主宰者・漱石によって『朝日歌壇』の選者に抜擢された。これは啄木にとって幸福への鍵となるはずだった。

ところが、啄木には困った癖があった。お金が入れば、浅草の私娼窟（しょうくつ）に入り浸（びた）る。友人に借金しても返そうとする気はない。同郷の先輩・金田一京助も被害者だった。漱石も鏡子夫人を通してお金を用立てている。彼は放蕩（ほうとう）の歌人だった。

啄木は明治45年4月13日に、27歳で亡くなった。2日後、友人の歌人・土岐善麿（ときぜんまろ）の実家・浅草の等光寺で営まれた葬儀に、漱石は朝日新聞の社員と共に香典金10円（現代換算20万円弱）を包んで弔問している。

おわりに

某オンライントークを拝聴していたら、とても興味深い話をした方がいた。その方が子どもの頃、お母様が絵本の読み聞かせをしてくれると、いつもその頁には書かれていない言葉や物語りを即席で話してくれる人だったと。その脱線の話がおもしろくて、"次はどんなアドリブでくるのか!?"とワクワクして想像して毎日いた…と。

その方は今、こう思うと語った。

『絵本でも詩でも、余白の中に描かれていない物語りがあって、本当は作者がつづらなかったものが沢山ある。そこに描かれていないものを想像する癖がつきました』

本の読み聞かせという、ツールを活かして、対話の時間ができたのに、※感性を磨く時間（じかん）を、忘れていきました。㊐

イラスト：1000

私はこの話を聴いて、手をたたいて大笑いしてしまった。実際には、「口を開かない」側の人が、周囲にうつさない…ということの方が合点がいくわけだが、こういう類の笑い話は実におもしろい。

この話から数日後、息子さんに会ったが、やはり喋らない姿に、笑いの後遺症！

ホームページではフルカラーで御覧頂けます♪【光寿苑 にしわが】で検索♪